

各部の名称と動作説明

- (1) POWER(電源スイッチ)
電界強度計の電源をON/OFFするスイッチです。
- (2) GATE TIME(SLOW / FAST)
周波数カウンターの表示を変更するスイッチです。
通常はFAST の状態で周波数分解能が10kHzです。
ボタンを押して灯がつくとSLOWの状態になり数字が左に移動します。
これにより下1桁が追加表示され周波数分解能は1kHzになります。
- (3) 周波数表示部
LEDにより、6桁の数字と小数点を表示します。
電池が消耗すると小数点が点滅を始めます。
OVER: 周波数表示が6桁を超えたときLEDが点灯しオーバフローしていることを知らせます。
- (4) 測定コネクタ
信号測定用のコネクタです。 付属のアンテナや測定ケーブルを接続して測定します。
- (5) メータ
測定値を指示するメータです。
メータ指示切替スイッチがdB側(スイッチ点灯)にあるときは、メータスケール上側のdBスケールを読みます。
メータ指示切替スイッチがSIG側(スイッチ消灯)にあるときは、メータスケール下側のSIGスケール(10分割目盛)を読みます。
- (6) メータ指示切替スイッチ
メータ指示スケールの切替をするスイッチです。dB(スイッチ点灯)とSIGの切替をします。
- (7) アンプスイッチ
測定に応じて20dB程感度を上げるためのスイッチです。 電波密集地では、混変調、その他によりメータが振りっぱなしになることがあります。 目的信号だけが入力できる状態で、感度を上げたいときに使用します。
- (8) フィルタスイッチ
AをON(点灯)にすると90MHz以下の周波数だけ測定するローパスフィルタが動作します。
BをON(点灯)にすると100MHz~170MHzだけを測定するバンドパスフィルタが動作します。
CをON(点灯)にすると330MHz以上の周波数を測定するハイパスフィルタが動作します。
A,B,CのすべてのスイッチがOFFのとき、10MHz~2500MHzの測定をします。
- (9) アッテネータ
測定する信号が強すぎる時、感度を絞るための減衰器です。
10dBがON(点灯)のとき、入力を10dB減衰します。
20dBがON(点灯)のとき、入力を20dB減衰します。
10dB,20dBの両方がON(点灯)のときは、30dBの減衰になります。
10dB,20dBの両方がOFFのときは、スルー状態になります。
- (10) セットアッテネータ
基準値(0dB)設定をするときに使用する連続可変タイプのアッテネータです。
メータ指針を0dB点に合わせてときに使用します。入力信号が強すぎるとセットできなくなります。 上側のアッテネータとの併用により適切に使用しましょう。
- (11) 外部電源端子
外部電源を使用するための入力端子です。 8V~12Vの電圧で300mA以上の電流が必要です。

